

CTCメルマガ vol.36  
2023.11.10

An illustration of a large intestine, rendered in a reddish-brown color with a textured, segmented appearance. Several polyps of varying sizes are attached to the inner surface of the colon. The illustration is positioned on the left side of the slide, partially overlapping a dark grey background.

米国の大腸がん検診  
USA!

Presented by Daisuke Tsurumaru  
Radiology Dept. Kyushu Univ.

# 日本では、大腸がん検診は便潜血検査ですね。

JPN

便潜血で陽性になったら？

- 全大腸内視鏡(これがほとんど)
- 注腸+S状結腸内視鏡

FIT positive → TCS or barium enema + SCS

# 米国では大腸がん検診が選択可能です！

USA

US Preventive Services Task Force

(50~75歳を推奨)	検査間隔	
便潜血検査	1年に1回	FIT/y
全大腸内視鏡	10年に1回	TCS/10y
S状結腸内視鏡	5年に1回	SCS/5y
大腸CT	5年に1回	CTC/5y

すると…

受診率が大幅に上昇しました！



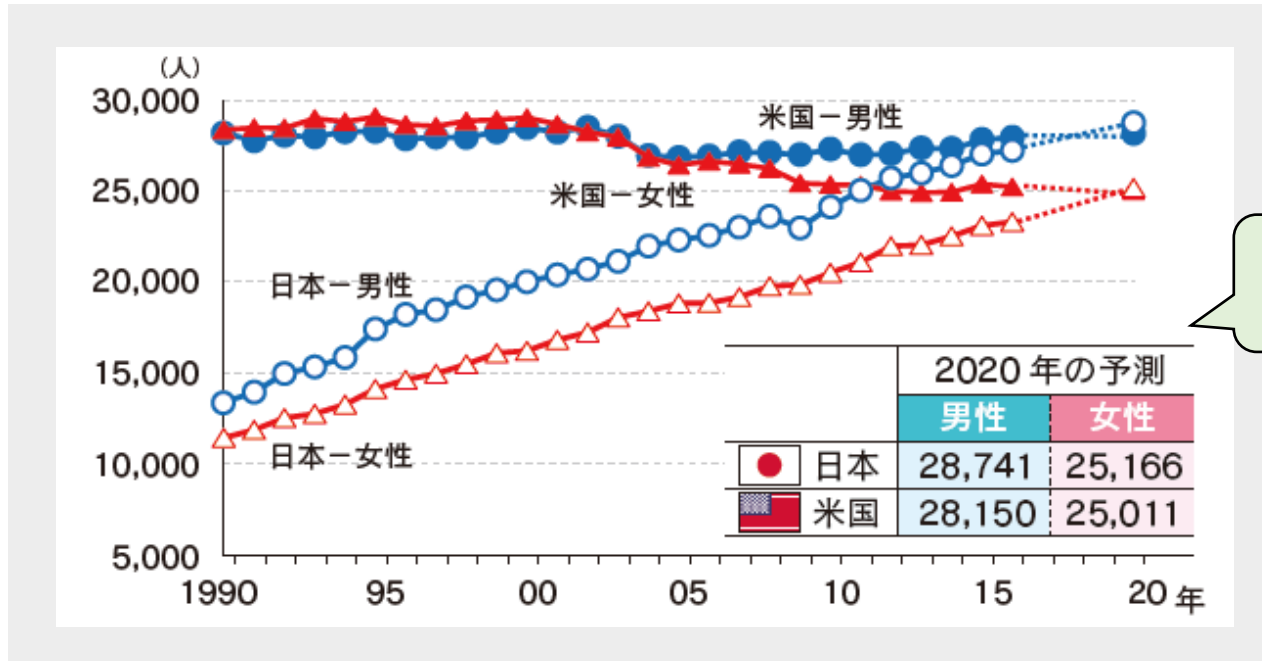
proportion

38.2% → 66.8%  
(2000年) (2018年)

5年や10年に一度  
と言えば受けそう  
ですね！

# 大腸がん死亡数も着実に低下！

Mortality USA↓  
Japan↑



30年間で日本と逆転！？

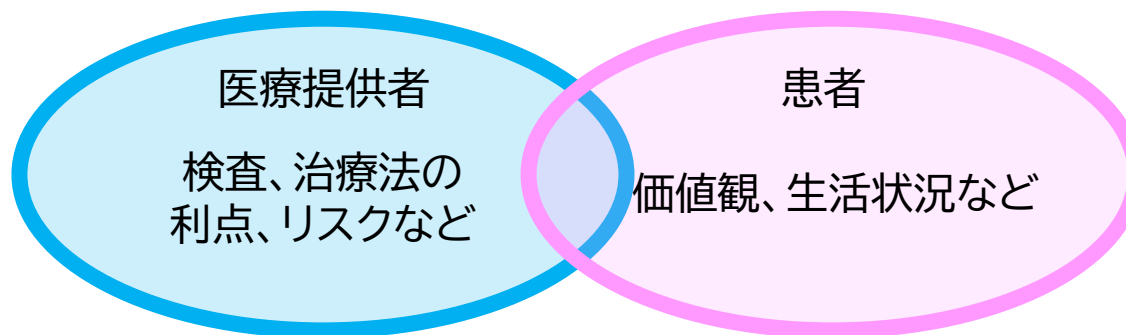
日本健康増進財団『いきいき健康だより』  
2020年春号～2021年冬号掲載

とにかく検査を受ければ、大腸癌が見つかって救える命が増える  
ということが分かります。

検査を選択するという新たな考え方があります。

## Shared decision making(共有意思決定)

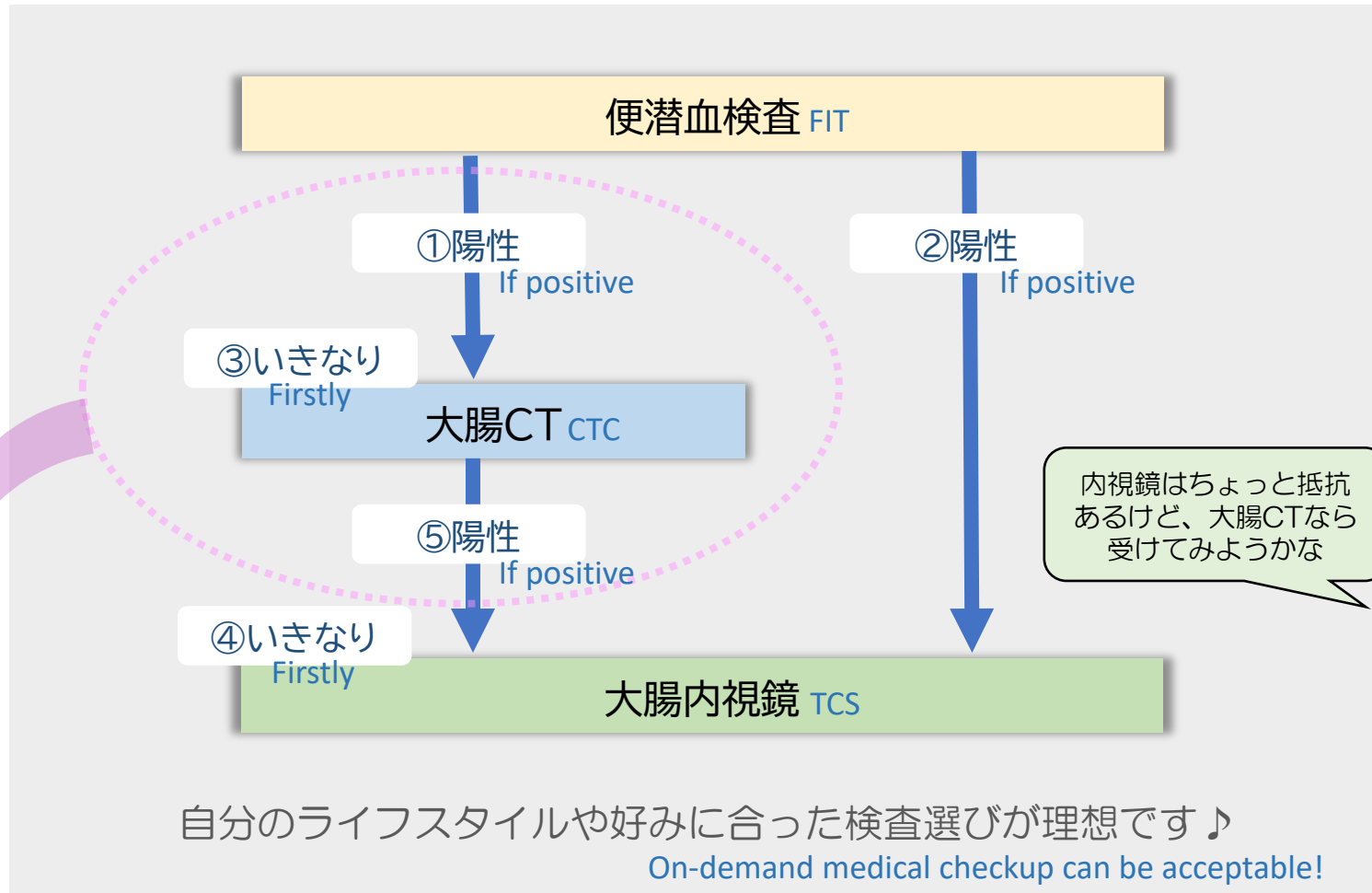
患者と医療提供者が共有して医療選択に関する意思決定を行うプロセス



- 患者自身の医療への積極的な参加
- 満足度の高い医療を得ることが可能

医療をよく知ることで、より現実的な選択をするということですね。

# 例えば、大腸がん検診に当てはめると…



**大腸CTの普及がカギを握っています！**